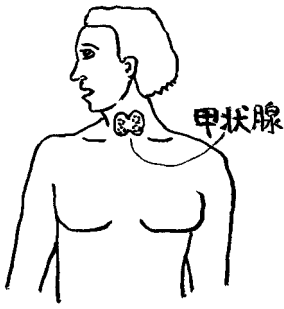


茂原地域が世界のトップクラス

茂原地域の天然ガスは、広く知られています。しかし世界的なヨードの生産地であることは知られていないようです。天然ガスとともに湧出する地下水からヨードを産出していますが、その生産量は世界でも上位を占めています。なお、ヨードは元素名では「ヨウ素」が一般的ですが、地域の生産者の呼び慣れた「ヨード」で記述します。

○知らずに過ごして

ヨードって何だ！傷手当でお世話になるヨードチンキの主成分ですが、傷手当だけでなく私たちに欠かせない重要なものです。人は頸部の甲状腺（図参照）から発育や新陳代謝のためのホルモンを分泌

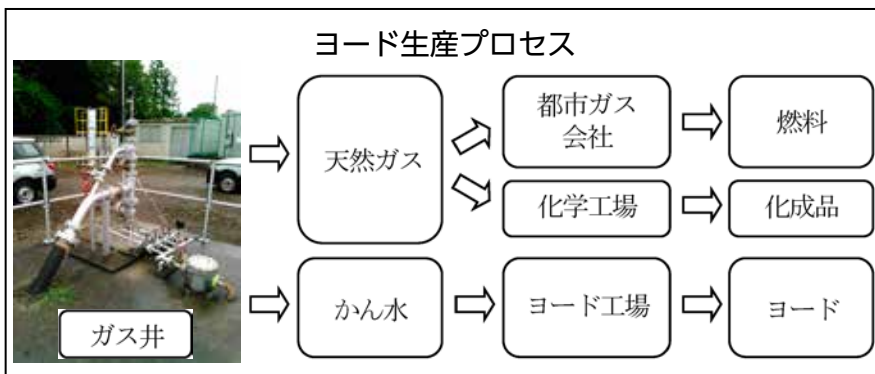


しており、ヨードは必須成分なのです。幸いにも日本は海に囲まれており、主に海産物からヨードを得ているので、ヨードを意識せずに過ごしています。しかし、世界の大陸や山岳地域ではヨードが得られず、その不足による弊害があるそうです。

○天然ガスとかん水

茂原地域の天然ガスは水溶性天然ガスであり、砂岩と泥岩との互層から成る今から約300万〜40万年前の地層から産出しています。

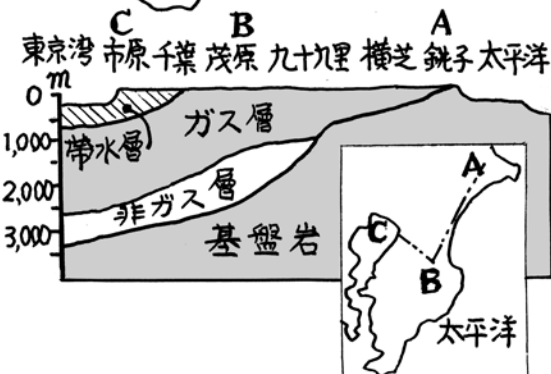
その鉱床は深海に多量の有機物を含む泥質物が堆積、化学的に還元分解されガスとなり、ガス散逸の少ない条件下で鉱床が形成され、またガス田のガスを含む地下水は古代の地下水で雨水の浸透をほとんど受けていないと考えられています。



ガスを含んだ地下水は「かん水」と呼ばれ、かん水からヨードを採り出しています。

南関東ガス田

天然ガス埋蔵地域



○海草から始まった

初期のヨード生産は、世界各地で海草を燃やした灰から採取されました。千葉県でも明治30年代以降は南房総の海草から生産されていました。その後、昭和10年に大多喜

ヨード不足を支援

アメリカなどでは食塩にヨードを添加したものが出回っているそうです。また、千葉県はヨウ素工業会と協力してヨード欠乏症に苦しむモンゴル、カンボジアやスリランカにヨード支援事業を行っています。

町で天然ガスのかん水からヨード生産が始まり、海草灰に比べて有利な経済性から、まもなく九十九里地帯にも生産が広まりました。現在、ヨードの生産量は、南米チリがトップで、チリ硝石から採取します。日本は2位でこの二国で世界の9割を占め、国内生産の約8割が千葉県で産出されています。地中の構成では帯水層が東京湾を囲むように広がり、その下のガス層が九十九里の一角に集中していることから、生産地が九十九里浜に沿って点在しています。

(次頁へ)